

冬こはR-18マンガ

※付き合ってる

※年齢操作(大学生)

大学に進み一人暮らしを始めた頃
冬弥がこはねのアパート泊まる話
ほぼ仲良くいちやついてるだけ





小豆沢…？

いいお風呂だった、
ありがとうー



ぐっすり
眠ってる…



起きて、小豆沢
このままじゃ
風邪ひくぞ

ううん…あれ？
私いつの間
に寝ちゃった…？



大学の授業
かなり忙しい
だろう

明日は休み
とはいえ

立ってるか？

寝るなら
ベッドへ――

今夜はやはり
休ませてもらおう

いやだよ。

小豆沢……

せっかく青柳くんが
来てくれたんだもん

先はちよっと
眠っただけ

今はもう大丈夫、
だから…

小豆沢…！

大学に入ってから、
いつもこういう
流れだ

んう…

あっ

小豆沢から
誘われたら
いつも断れない

はは

彼女のことも
っと大事に
したいのに

——頼むから
これ以上俺を
煽らないでくれ

青柳くん
気を使ってくれて
ありがとう

また抑えきれないなら
小豆沢を傷つくかもしれ
ない

もう我慢の限界
なんだ……

でもね、わたしは
そんなに弱くないし、
傷ついたりすることが
一度もないよ？

もっともっと
一緒にいたい





こはねのナカ、
すごく締まって

くっ

グッ
グッ



ひゃっ、ひゃっ...
すっ、すっ

ハッ
ハッ



とおやくん、
きもちいい...

あーっ



今夜は
こはねの全てを
可愛がってやろう

ちゅる...

とーあ、ぐう...



俺のこと
こんなになんて
欲しがって

とても嬉しいぞ

びんらん



それから何度も
求め合った

お互いの寂しさを
埋め尽くすように



俺たちはいい子の
ふりをして
秘密なことを
重なっていくのだ



Fin♡



